

都市封鎖の懸念 市場不安

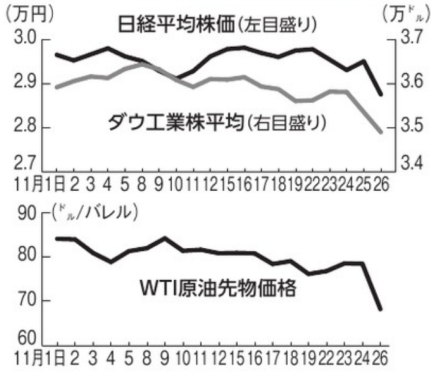
世界同時株安 原油急落

新型コロナウイルスの「オミクロン株」の出現に世界は身構えている。各国で入国制限が強化され、今後の感染拡大によってはロックダウン（都市封鎖）が現実味を帯びる。経済の回復期待が高まっていただけに、危機再来が警戒されている。

▼1面参照

南アフリカで新たな変異株が見つかったことに株式市場は大きく反応し、世界同時株安の様相となった。26日の東京株式市場では、日経平均株価の終値は約1カ月ぶりに2万9千円を割り込んだ。欧州の主要な株価指標も軒並み下がった。米ニューヨーク株式市場では主要企業でつくるダウ工業株平均が一時、前営業日より1千ドル超値下がりした。航空やホテル関連の企業の下げがめだつた。

原油価格は世界的な経済活動の再開で高止まりして



新型コロナウイルスの懸念される変異株(VOC)の種類

株の種類	最初に報告された時期	国
α アルファ株	2020年9月	英国
β ベータ株	5月	南アフリカ
γ ガンマ株	11月	ブラジル
δ デルタ株	10月	インド
○ オミクロン株	2021年11月	南アフリカ

VOCはVariants of Concernの略。複数の国で広がり、高い感染力やワクチン効果への影響が示されるなど公衆衛生上の重要性が高まると指定される

南アフリカではこの夏以降、デルタ株が蔓延してきた。まだデルタ株が残って

いる状況で、オミクロン株が置き換わる形で急速に広がっていることも、感染力の高さを示しているのではないかと懸念につながっている。欧州では現在、デルタ株による感染拡大が深刻だ。冬を迎え、さらに感染力の高い変異株が加わるかもしれない。そんな状況から、E CDCは現状の危険性のレベルを「高い、または非常に高い」とした。

オミクロン株はどんな特徴をもつウイルスなのか。欧州疾病予防管理センター(E CDC)の資料などによると、オミクロン株はアルファ株やベータ株などの変異株で確認された遺伝子の特徴がいくつも異なる。これまでの変異株よりも感染力が高く、一度かかった人やワクチンを打った人で備わった免疫をすり抜けて感染が広がってしまう心配がある。

南アフリカではこの夏以降、デルタ株が蔓延してきた。まだデルタ株が残って

オミクロン株「高い感染力」指摘も

英国の大手スーパーの仕

30日からの世界貿易機関(WTO)の閣僚会議も26

日、延期された。一般理事会議は声明で「我々は深刻さを十分に理解している」と危機感を示した。経済回復が世界でも遅れていた日本も厳しい状況だ。海外で感染が広がれば輸出が減り企業の業績は落ち込む。国内でも消費者がお金を使いにくくなり、景気が悪化する可能性がある。(和気真也ロンドン、真海喬生ニューヨーク、江口英佑)

高い」と断定することまではできない。現在のワクチンが本当に効きにくいのかどうか、試験管内での実験を含めてさらに調べる必要があり、その作業に「あと2〜3週間かかる」(E CDC)。

南アからの報告では、この変異株による感染者の中には無症状の人もいるという。いまのところ、患者の重症化をとくに引き起こしやすいといった指摘はみられていない。

東京大学医科学研究所の佐藤佳准教授(ウイルス学)は「どんな変異が起こっているのか、どれだけ患者が出てくるかといった情報が少ない。いまの段階で、

口憲太、編集委員・田村建二、ワシントン＝高野遼